東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008 年 3 月 21 日

批評・批判

親愛なるムスリムの皆様。批評・批判とは、人、もしくは作品、あるいは何らかのテーマについて、正しい、もしくは誤った面を明らかにしていくこととして知られます。

批評・批判という言葉からクルアーンを連想しないわけにはいかないでしょう。それは誤ったもの全てを批判します。誤ったものに対し無言でいることはそれに同調していることを意味するのです。預言者ムハンマドはこういった状態を「言葉を持たないシャイターン」と表現されました。

クルアーンが、誤ったことであると見なし、批判している最初の、そして最も重要な事項は、人間が自分の手で作った偶像を崇拝することです。クルアーンはこれらの偶像を、なにものも作り上げることのできない、作られた存在であることを指摘し、偶像崇拝を批判しています。

信仰に関する事柄について相手は批判することを望んだ場合　クルアーンがそれに対してその可能性を与えています。そして道を示しているのです。討論になった場合、真実が明らかになるのです。その例を一つ示すとすれば、クルアーンは次のように述べています。「もしあなたがたが、わがしもべ（ムハンマド）に下した啓示を疑うならば、それに類する 1 章〔スーラ〕でも作ってみなさい。もしあなたがたが正しければ、アッラー以外のあなたがたの証人を呼んでみなさい。」（雌牛章第 23 節）人々が主張したようにもしクルアーンが預言者ムハンマドが勝手に作り上げたものであったとしたなら、そしてそれを主張した者もそれぞれが一人の人間であるのなら、クルアーンに似たもの、少なくともその 1 章ほどに値するものを作ることが出来て当然です。さらに預言者ムハンマドは一人だけであり、偶像崇拝者達が多くの人に助けを受けることができるのです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。クルアーンは、批判と言う方法によってこの上なく重要な原則を明らかにしています。まずクルアーンは、批判する相手へ、その知らせの源を確認することを勧めています。「信仰する者よ、もし邪な者が情報をあなたがたに齎したならば、慎重に検討しなさい。これはあなたがたが、気付かない中に人びとに危害を及ぼし、その行ったことを

後悔することにならないためである。」（部屋章第 6 節）私達が批判を行なった人へ中傷が行なわれ、言葉が人を傷つけ、あるいは少なくとも誤解が生じていた可能性があります。従って、信頼できない源からの情報には正しくない情報が含まれている可能性を考えておかなければならないのです。

一方でクルアーンは、一つの集団に対して私達が感じる憎悪や怒りが、その集団へ公正に、良心的に振舞うことへの妨げとなってはいけないということを指摘します。言い換えるなら、ある項目、あるいはある集団を批判する時も公正さを失わないことを命じているのです。

批判は、建設的なものである必要があります。もし批判が建設的なものでなく、単に人を傷つけ怒らせるものであれば、それはもはやただの口げんかとなってしまうのです。口げんかとは、真実を明らかにするためではなく、双方が相手に負けないように言い張るだけのものです。クルアーンはこのような行為を行なう人々の特質を述べた上で、何らかの項目について知識もなく討論することがそれほど無意味であるかを指摘しています。さらには、人間という存在が根拠も持たずに討論することを非常に好む、ということも指摘しています。このテーマは来週も続けます。